

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム明日香
(ユニット名)	すみれ
所在地 (県・市町村名)	静岡県浜松市
記入者名 (管理者)	塚原 麻衣子
記入日	平成 20年 6月 7日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	今後、現在の利用者の状況に合わせた10ヶ条作りを、職員全員で検討し、更に、「その人らしく」過ごせる環境作りを目指したい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	当ホームの理念のとおり、「お互い様の心」で、地域の方とも、接して頂けるように、ホームを開放し、気軽に立ち寄って頂くことができるように環境を整え、交流できるように努めたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	利用者はホーム内以外での交流が少ないため、公民館なども要望に合わせて、利用し積極的に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として、ヘルパー2級の実習生の受け入れを行っている。	○	運営推進会議から、ご意見、ご要望を伺って、地域貢献に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、意識向上に努めている。結果は職員会議で公表し、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在行っていない。	○	今月に実施予定である。沢山のご意見を取り入れ、サービスの向上に活かし、取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特には行っていないが、困ったことなどは相談に伺っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前、ご家族からの要望で、成年後見制度を使用したことがあった。現在は、利用してる方はいない。	○	今後、勉強会などで全職員が理解できるように努めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶ機会もあり、勉強会でも職員の理解を深めるようにしている。全職員、防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明者を説明し、ご家族にも理解して頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員、管理者は、日々の関わりから、言葉や想い、意見を聞くように努めている。月に1回、市の介護相談員に来ていただき、利用者の相談にのっていただいている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている	1ヶ月毎に、当ホームの「明日香だより」にて、暮らしぶりや職員の紹介などを行っている。体調に変化があったときには、その都度、電話連絡をしている。面会時にも様子を報告をしている。金銭管理は、ご家族に定期的にお小遣い帳をみて頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前に、センター方式を使用しご意見や要望を伺っている。入居後は、面会時や行事の際にも、ご家族に、ご意見やご要望を頂きながら、反映できるように、努めている。	○ 運営推進会議より、ご家族に更に、ご意見を頂けるよう環境作りや交流を深めることを目指したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンス、勉強会などで、テーマを決め、全職員の意見が、統一出来るように話し合い、取り組めるようにしている。個人面談を行い、一人ひとりの思いを聞き、活かせるように努めている。	○ 全職員と定期的に個人面談をし、更に、一人ひとりの力の発揮の場となるよう、良いチームワーク作りに努めたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に合わせ、遅番の時間や早番を取り入れることなど、随時行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージが少なくなるように、馴染みの関係作りため、新人研修を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要時や希望時に、外部研修に参加している。研修参加者は、当ホームにて月1回の勉強会(伝達講習)を行い、全職員が参加し、理解できるよう努めている。研修報告がない時は、状況にあったテーマで勉強会を開いている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加し、交流を深めている。研修後も、意見交換したり、事業所見学などをする機会をもち、質の向上に努めている。	○ 今後も、全職員が交流する機会を増やし、研修参加などにより、沢山の気づきから、質が向上できるよう努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に把握できるよう努めている。一人で抱え込むことがないように、ホーム全体の問題として捉え、会議で話し合い、職員同士支え合う環境作りに努めている。また、親睦会の場を作り、良い雰囲気作りに努めている。	○ 有給休暇など、消化できるように環境作りに努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修費用の負担面からも、多くの研修の機会に参加できるように、配慮されている。職員の向上心を高めるために、福利厚生面も配慮がある。(ホテル宿泊券の配布・食事会の開催など)	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人から情報がいただくことが難しい時には、ご家族に伺ったり、ご家族了解のもと、他施設に伺い、情報提供していただき、入居の際ご本人が困らないように、努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を希望されてから、定期的に、電話で近況報告やお話を聞くよう努めている。入居前には、センター方式を用いて、ご家族の思いを伺っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況によって、可能な限り、対応するように努めている。訪問リハビリ(医療保険)を利用する利用者もサービスを受けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学されて、入居される利用者もいるが、すぐに入居される利用者もいる。入居前に、センター方式から情報を頂いて、全職員が、情報を共有し、ご家族にも協力していただき、ご本人が心地よく過ごす事が出来るように工夫している。	○	利用者が、安心してホームに馴染めるように、ご本人の意思を尊重し、ご家族の意向を伺いながら、見学およびその他関連する準備をすすめていく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いに寄り添いながら、関わりを深めている。一人一人の情報収集を行い、例えば、食事・洗濯・畑仕事などを通して、職員が学ばせていただくことが多い。また、職員と利用者が、感謝の気持ちを持ちながら、支えあっている。	○	悲しみや、寂しさ・怒りに対しても、本人の気持ちを理解できるように、信頼関係を築けるように取り組みたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に呼びかけて、行事の準備や片づけなどを、手伝っていただいている。ご家族には気軽に、話をしていただく機会となり、職員と利用者を含め交流がはかれている。	○	全職員が、ご家族に気軽に話をしていただけるように、さらに関係を深めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や当ホームのお便りにて、本人の思いなどを伝え、相談している。行事なども参加していただき、良い関係作りに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に遊びに来ていただいたり、飼っていた犬を連れて来ていただいたりしている。お気に入りの美容院に通っている利用者もおり、継続的な交流が出来るよう取り組んでいる。	○	一人一人の馴染みの場所や人を理解し、可能な限り支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について、情報を共有し、見守り配慮をするようにしている。職員は、表情や言葉から読み取り、利用者同士が、コミュニケーションが潤滑になるように、努めている。	○	利用者同士が、いい印象がもて、いい関係作りが出来るように工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近所に住んでいる方には、行事を招待することもある。お見舞いに伺ったり、お亡くなりになられた時には、葬儀に参列させていただかせている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いて、情報収集に努めている。カンファレンスで、その人に合ったケアが出来るように話し合いをしている。また、日々の関わりの中で、表情や言葉、行動から、思いをくみとれるように努めている。	○	一人ひとりの思いをくみとることが出来るように、関わりを大切にし、希望や、意向にそえるように取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族やご本人から、情報（センター方式）をいただき、全職員で把握に努めて、ケアに取り組んでいる。入居後も、ご家族にその都度、情報をいただくようにしている。	○	生活を理解するためにも、利用者との会話の中から引き出したり、友人の面会時などに、交流を持ち、馴染みの暮らしが出来るように更に、情報収集に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	「いつものご本人」を知り、変化に気付くことが出来るように努めている。日によって出来る事を見極めながら、関わり、記録に残している。必要に応じて、状況チェック表を使用している。	○	利用者の出来る事を引き出し、自信を持ちながら生活できるように努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族やご本人の思いや意見を大切するために、センター方式を用いている。担当者がまとめたものを、カンファレンスで話し合い、全職員の意見を取り入れながら、介護計画を作成している。	○	計画的に作成できるよう取り組みたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化や問題が生じた時には、家族に相談や確認しながら、毎日のカンファレンスで話し合い、見直しを行っている。話し合いが長引くことがあり、期間内に評価することが出来ないことがある。	○	期間内に、円滑に評価が出来るよう取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録に書き込めない時はケース記録に、具体的に記録するように努めている。申し送りなどから、情報の共有や実践に繋げている。	○	全職員が、介護計画に添った記録を意識的に出来るよう環境を改善し、取り組みたい。(記録用紙の検討)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医などの受診時の付き添いは行っている。ご家族やご本人の希望に応じて、ターミナルケアをおこなっている。	○	今後も、柔軟な支援が出来るよう取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事などでは、地域のサークル団体(ハーモニカや太鼓、吹奏楽など)に来ていただいている。避難訓練時には、消防署に協力していただいたり、行方不明者が出たときは警察への通報などし、連携している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人やご家族の希望で、状況や体調に応じて、訪問理美容サービスや訪問リハビリ、歯科往診など、受けることが出来るようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は協力する事案がなく、関わりをもっていない。運営推進会議には参加していただけることになっている。	○	今後、運営推進会議を通して、必要時に、協力していただけるよう関係作りに努めたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診には、ご家族同意のもと、検査内容の把握や送迎など、緊密に連携をとれている。月に2回往診に来ていただいている。急変時は、看護師やかかりつけ医に来ていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの、状況に合わせた声かけをしている。個人情報、漏洩することがないように注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声かけや、話を聞く環境を整えることなど行っている。意思表示が、うまく出来ない利用者には、表情から読み取ることや、二択で選んでいただけるよう工夫している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況より、要望が聞かれたときは出来るだけ対応できるようにしている。高齢化による介護度の低下や認知症の進行、職員不足などににより、対応出来ないときもある。	○ 出来る限り、希望にそったケアが出来るように、全職員で検討し、取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院にいかれたり、ご家族による散髪や、訪問理美容でカットや毛染めをしていただいたり、本人やご家族の希望で行っている。意思表示がうまく出来ない入居者にも、情報より、好みの服や色を選び、「その人らしさ」を大切にしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日には、利用者の好みにものを一緒に作っている。普段から、味噌汁作りや盛り付け、配膳、片付けなどを会話しながら、行っている。畑で収穫した野菜を調理し、楽しみとなるように工夫している。食欲がないときには、お粥やおにぎりなど、嗜好品で対応している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物に行き購入している。意思表示がうまく出来ない利用者には、口の開き、進み方、表情などから嗜好品を読み取り、声かけなどを工夫し、楽しめるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全職員でオムツ体験をし、気持ちの理解に努めた。出来る限り、トイレでの排泄が出来るよう努めている。必要時、状況チェック表を用いて、サインや排泄パターンをつかむように心がけ、心地よく過ごせるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日に入っていただいている。入浴の把握をし、入浴を嫌がる利用者には、安心して入っていただけるように、意識的に関わりを増やし、一人ひとりのタイミングを大事にした声かけを、工夫している。	○	すべての利用者が、気兼ねなく入浴が出来るよう工夫していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	表情や言葉などから、体調などを読み取り、休息がとれるよう配慮している。夜間は眠れない原因を探り、添い寝やアンカの使用、ホットミルクをだし、お話を聞くなど、安眠に繋げている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	情報をもとに、利用者の得意分野を活かしながら、職員は関わっている。利用者が行いやすいような環境作りに努めている。「ありがとう」と意識的に、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理されている利用者もいるが、ご家族より、お金を預かり当ホームで管理されている利用者が多い。支払いは、ご本人に行っていただけるようお財布を渡している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出掛けられる日は、車椅子や車を利用し、庭での日向ぼっこや草取り、散歩やドライブなど行かれる。	○	意思表示がうまく出来ない利用者への声かけや配慮を工夫して、多くの利用者へ、季節感などを楽しんでいただきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事の中から、ご家族にも協力していただきながら、遠出している。	○	回数を増やし、一人ひとりの満足度をあげていけるよう取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、ご家族の負担も考慮しながら、対応している。部屋でかける時には子機を使っただき、家族とのやり取りを大切にしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族に、「利用者の家」と思っただけのように、24時間いつでも面会出来るようになっている。希望時は宿泊もできる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議でケアを振り返りながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、施錠をしてはいない。自ら外出される方の見守りは常に職員が意識をしているが、外出されるときには、そと後ろからついていったり、一緒に歩いたりしながら、気分転換を図る事ができるように援助をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、職員がフロアの見守りをし、入居者の気持ちや行動に意識している。部屋にいる時は所在を職員同士が、確認するようにしている。見回りやさりげない声かけなど、配慮をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に合わせて、刃物など使用する際は、職員が、傍にしているようにしている。使用後は、職員が所定の場所に片付けている。変化に応じて話し合いをするようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修や勉強会で学ぶ機会がある。事故報告書を用いて、利用者の思いや防げる可能性に着眼し、全職員で前向きに検討し、取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	当法人の往診看護師に依頼し、勉強会で応急処置など、指導していただいている。	○	勉強会で定期的に依頼し、全職員が理解できるよう取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力のもとで、避難訓練や指導を行っていただいている。勉強会などで、災害対策を話し合い、意識づけや必要物品を少しずつ揃えている。	○	今後、地域の方の協力を得られるよう、働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ヒヤリハットや事故報告書より、ご家族に状態や状況を具体的に説明している。当ホームの取り組みや対応策、考えられるリスクに関してもお話し、ご家族の理解や協力をしていただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態の把握に努めており、変化が見られたときには、バイタルチェックを行い、記録に残し、情報の共有に努めている。すぐに、往診看護師に相談し、連携がとれている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに残し、管理している。処方が変わると、連絡ノートに薬担当者が記入し、全職員が把握できるようにしている。変化は記録に残すようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつなど、食物繊維を含むものや、乳製品、牛乳などを多くとりいれている。水分も多くとっていただくために、飲みやすいココアやコーヒーなども用意している。出来るだけ歩いていただくよう取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ではないが、夕食後には、必ず行っている。義歯は洗浄している。必要時、歯科医師に往診していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量など記録に残しており、食欲などの変化を把握出来るようにしている。食欲がないときは、おにぎりやお粥などや嗜好品で対応している。水分摂取が少ない利用者には、飲みやすいココアやコーヒーなどで工夫している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗いやうがいをしっかり行っている。季節や時期に合わせて、対策を掲示することやインフルエンザの予防接種を受けている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎晩、まな板の漂白やシンク類の洗浄を行っている。食材は、賞味期限の点検や処分を行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	広い庭があり、花壇やプランターを置き、季節の花を楽しめるようベンチ設置している。金魚や愛犬を飼っており、明るい雰囲気になっている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには、月ごとに、季節にあった飾り付けをしている。季節の花を飾ったり、観葉植物を置いてある。1階フロアーからは、藤棚が見えるようになっている。台所も自由に入れるようになっている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室などで、くつろげるよになっている。窓の近くにも、ソファーやイスを置き、居心地よく過ごせるように、工夫している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのものや馴染みのものを持ち込んでいただいている。家具の配置は、本人とご家族と相談し、安全を考慮し、工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、もしくは、気になった時には、換気を行っている。居室は利用者一人ひとりにあつた、温度調整を行い、配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や車椅子でも入ることが出来るトイレなどは、利用者の意欲に繋がるようになっている。エレベーターも設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者に合わせて、話し方の配慮や行動を共にすることなど行っている。トイレやお風呂にはわかりやすく工夫をしている。夜間のトイレがわかるように必要なところは電気をつけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	藤棚や庭の活用、畑の収穫など、季節を感じ、楽しめるようにしている。玄関先には、日向ぼっこが出来るようにテーブルとイスを置き、おやつなど楽しんでいる。犬や金魚のお世話もしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員全員が、利用者一人ひとりを、家族のような思いで援助し、笑顔あふれる毎日が送れるように介護している。それは、毎朝、行っているカンファレンスでも、利用者の立場に立った意見を出し合い、その人らしい生活が送れるような支援を真剣に考えている。それは、「お互い様」といった理念の下、何でも話し合える関係が作れ、お互いの仕事を認め合う中から、感謝の気持ちもうまれている。その結果、仕事上での気付きなど、職員の感性の成熟にも繋がることとなり、特に、リスクマネジメントとして、転倒等を未然に防ぐ工夫は、最も力を入れている1つである。